

課題になっている行動 (気になる行動)

先生の言葉全部を 真似して言うてしまう

「そ
「お茶を
くださいだけ」

そこは言わなくていいよ
「お茶をください」だけ



監修・文 水野敦之 絵: 宗貞由貴子

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
<input type="checkbox"/> 様々な状況の変化 ■ 影響を与える刺激や情報 反響言語に配慮しない言語指示での教え方 ■ 必要な支援がない 本人が理解できる情報でつたえていない 本人の特性にあった教え方がされていない <input type="checkbox"/> その他 ■ 行動前の状況※ 相手が言葉で指示をする	■ 受容コミュニケーション の特性：先生が期待していること、模倣の範囲がわからない ■ 表出コミュニケーション の特性：即時性反響言語（相手の言っていることを繰り返す）、言葉の模倣はできるが模倣の範囲がわからない ■ 関係理解（意味理解）・般化の困難さ	<input type="checkbox"/> 習慣になっているものがある ■ 自分流の気づき・考え方をもち先生の言葉を言葉を繰り返している どこからどこまで真似していいかわからない <input type="checkbox"/> 過去に経験したこと学んだこと <input type="checkbox"/> 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること ■ 行動後の状況・結果※ 相手が繰り返し言葉で指示をする

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
	言葉の模倣はできる 絵、写真の理解	

支援計画 ※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります		
環境を変える部分は？ ・代替コミュニケーションを準備し活用する。	本人の特性にあわせた支援は？ ・本人が理解できる絵や写真などの情報で伝える。 ・即時性反響言語があることを念頭に置いた教えた、モデル提示を行う。	本人に伝える・教える部分は？ ・各場面の表出コミュニケーション指導で、本人に言ってほしい内容でモデルを提示する（反響言語を活用する） ・本人の好んで使っている表出コミュニケーションのタイプから教える。 ・本人の好きなものから教える

解説と支援の方向性について

自閉症の人の中には、反響言語がある方がいます。反響言語は、以前聞いたコマースやニュースなどを繰り返す遅延反響言語と、その場で言われたことを繰り返す即時性反響言語があります。このエピソードでは、言ってほしい言葉とその他の言葉の境界のイメージが難しいのです。模倣しなくてはいけない言葉と、模倣しなくて良い言葉の区別ができずに言われた全部をいっています。